

## 「私の第一声⑧」

### 【高校卒業と浪人時代】

高校での私の成績は、ひどいものでした。特に英語嫌いの私は、リーディング（文章読解）もグラマー（文法）も、欠点（不合格点）ばかりだった記憶があります。私の時代はスピーチや会話はほとんどなく、ひたすら読解と筆記でした。「どうせできない」と自分で決めてかかっていて、テスト前に少しは勉強するものの、何とかやり過ごしてテストが終わることだけを待っていました（私の時代の高校にはテスト休みとして、定期テストの後、数日間休みでした。平日の休みですからパラダイスでした）。好きだった理数系も、数学は「無限」の考え方が理解できず積分で挫折、あんなに好きだった理科も、物理はまだしも有機化学はチンプンカンプンでした。

多くの生徒が偏差値で受験高校を決めていた時代でした。その頃は、私自身、行くことの可能なできるだけ偏差値の高い学校に行くことが幸せで、入学さえできたら、後はその高校が自分の学力を上げてくれると勘違いしていたのだと思います。今から考えれば、自分の力に合った高校を選択できなかった自分のミスなんですが…。

唯一、国語だけは、小学校時代から（現実逃避で）積み重ねてきた読書量がいい方に働き始めます。中学校までは、文章読解といえども、教科書で学んだことが定期テストに出題されます。暗記が苦手だった私は、結局それほどの結果を残せませんでした。しかし、高校の読解は初見の文章で勝負です。本をたくさん読んでいると、良い文章だと1度読んだだけで、筆者の主張や大まかな内容は理解できます。後は、じっくりテストの設問にかかわる部分を読み、整理して考えれば答えにたどりつけます。何しろ国語の文章読解は、答えがそこに書いてあるのですから！書く力も、高校生になり、ようやく表現したいことと、書く技術が整ってきて、苦手だった作文が好きになり、こっそり真似事の小説作品なども書くようになっていきました。

高校3年生時、最後の共通一次試験を受けました。まだ昭和でした。高望みが過ぎて、ことごとく不合格。就職を選ぶ根性もなく浪人することになりました。保護者に頼んで予備校に通いながら受験勉強です。

しかし、周りには同じように浪人した友人がたくさんいました。焦りはあるのですが、なかなか没頭できない。世の中はバブル景気に沸き、友人の大学生達もみな、バイトで今では考えられないくらい金持ちで、遊びに誘ってきます。

そんな中、1年後の受験、初のセンター試験でしたが、これも失敗。まさに絶望的な気持ちで二浪目に入ります。二浪する友人はほとんどいない。今から考えれば、浪人を許してくれた両親がいる（激怒してましたが…汗）など、贅沢な状況でしたが、そんなこともわからない私は、自業自得なのに人生に絶望し、太宰治の気分でした（我ながら情けない…トホホ）。

さすがの私も、毎日背中に冷や汗をかきながら真剣に勉強に没入しました。やり始めるといろいろなことがわかってきます。苦手とする暗記も工夫次第で成果が上がることや、嫌いな英語もとにかく細かいことを考えずに、日本語と同じようにどんどん読み進めれば、多少内容を理解できるということなど。でも、ある程度単語がわからないと、大意はわかっててもテスト問題は解けない。大嫌いだった英単語も、ようやく覚える努力をするようになりました（遅～い）。

国語も、「田村の現代文」（当時のカリスマ予備校講師著）という参考書を読み、それまで直感で解答していた問題も確信をもって答える自分なりのコツを掴むことができました。全国模試の小論文の成績が全国2位になったことをきっかけに、書く方も自信が出てきました。

そんな中、私は浪人生のまま成人の日を迎えます。恥ずかしくて、成人式には行けませんでした。今から考えれば、一生に一度のことだから、行くべきでしたね…。浪人なんて自分の責任なんですから。

そしていよいよ、3度目の大学受験シーズンがやってきました。崖っぷちです。センター試験の結果は、努力の割には厳しいものでしたが想定内。絶対失敗できない受験大学の選定をしなくてはなりません。2年前、無謀な高望みをしていた自分を、悔いても悔いきれません。

【不定期コラムNo.19】へつづく

### 第三中学校ホームページ

では、子どもたちの様子やお知らせなど情報発信しています。ぜひご覧ください。これまでの不定期コラムも「校長室より」のコーナーでご覧いただけます。

<http://www.kaizuka.ed.jp/dai3-jh/>

